

授業科目名 (英文表記)	経済思想史 (History of Economic Thought)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	阿部 秀二郎		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 10月8日(土) 13:00~17:00	第3回 10月22日(土) 13:00~17:00	
	第2回 10月15日(土) 13:00~17:00		

【授業のねらい・概要】

経済学を構成する経済理論は経済学者によって作られるものですが、経済学者は特定の時代・空間の中で思考しています。このことから経済学はいかに汎用性があるように見えても、普遍的ではありません。一方で、経済学は時代の問題・課題を解決するための手法として利用されていますから、現在使用されている経済学の条件を把握したうえで利用していかなければ、間違った手法になってしまいます。この講義では、経済学者がどのような制約条件に基づいて経済理論を構築しようとしていたのかを時代的・空間的制約を明示することで考察したいと思います。さらに経済学は動的に変化していく現象を考察してきた学問ですから、複数の学問領域の内容が内包されています。これらの歴史について分析することで、履修者は多様な視点から経済学を考察する能力を獲得することができます。

【授業計画】

第1回①

ガイダンス、科目のカリキュラム上の位置づけの説明・授業方法の説明・成績評価方法の説明など
経済学の成立 経済学が成立した背景と時代的條件を考察します

第1回②

階級対立 経済学が階級対立(所得格差)を議論した背景と時代的條件を考察します

第2回①

科学の影響 経済学が科学の影響を受けて展開した背景と時代的條件を考察します

第2回②

社会科学の女王の子供たち

経済学の異端にはどのような考え方があったのか考察します(田辺学派? 和歌山学派?)

第3回①

女王の躓き 経済学が転回する背景と時代的條件を考察します

女王の君臨か失墜か 経済学も他の科学と同様に慣性の法則が存在します。その条件を分析します

第3回②

現在の経済学 現在の経済学とその前提を俯瞰します

まとめ、レポート指示

【到達目標】

履修することで、次のことができることが目標です

- ・履修者は、経済学を経済学者との関係で見ることができるようになる
- ・履修者は、過去の経済学の前提条件を説明することができるようになる
- ・履修者は、現在の経済学の前提条件を探究することができるようになる
- ・履修者は、現在の経済学の特徴を相対的客観的に説明することができるようになる

【成績評価の方法】

授業での質疑応答(40%)、授業への提出物の内容(20%)、レポート(40%)

【教科書】

特にありません

【参考書・参考文献】

授業中に適宜紹介しますが、比較的新しい情報にアクセスすることになると思います

【履修上の注意・メッセージ】

この授業は、その構成において議論を行う時間を予定しています。積極的な質疑応答を望みます

【履修をする上で必要な事項】

南紀熊野サテライトでは対面で、それ以外の地域から参加する場合には同時配信で授業を行います。同時配信を受信する方法として、パソコンとTeamsさらにZoomのアプリをダウンロードしておいてください。さらに質疑応答する場合に、ハウリングが生じないようにイヤホンをご準備ください。

【授業時間外学修についての指示】

授業では、毎回テーマを予習問題として提示しておきます。それらについてMoodleで入力、または紙で提出してもらいます。授業ではそのことについて議論します。その後、復習してもらった内容をMoodleに提出、または紙に書いてもらいます。レポート作成も要求します。これらの時間を総合すると相当な時間の学修が必要となります。